



第75回

「ポリオ予防接種」が救う命

※2024年9月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

イスラエルによる非人道的な破壊が続くパレスチナ自治区ガザ地区で、2024年9月1日から子どもたちへのポリオワクチンの予防接種が実施された。この間、一時的とはいえ、戦闘が停止された。

ポリオはまだ世界的に根絶されていない。だが、ガザ地区では過去25年間、感染はなかった。

24年7月、下水のサンプルからポリオウイルスが検出されたことが確認された。ポリオによる急性のまひ症状が疑われる子供も見つかっているという。

いったいなぜ、感染が起きたのか。ワクチンによって感染の広がりには抑え込めるのだろうか。

ポリオウイルスは、主に5歳以下の子どもがかかる感染症だ。多

くの場合は無症状だったり、風邪のような症状でおさまったりするが、一部に手足のまひが残るケースがある。小児まひと呼ばれるゆえんだ。

日本では1980年以降、自然由来のウイルスによるポリオの発生はないが、世界ではまだ流行がある。世界保健機関（WHO）は、ポリオ根絶計画を進めているが、簡単ではない。

ポリオワクチンを接種するには大きく分けて、経口生ワクチンを飲む方法と、不活化ワクチンを注射する方法がある。生ワクチンは病原性がほとんどない弱毒ウイルスを使ったもので、強い免疫反応が得られるが、まれに自然由来のウイルスと同じ症状が出てしまう

ことがある。また弱毒ウイルスが変異して病原性を獲得し、流行することもある。

戦が、戦闘を一刻も早く終わらせることにつながってほしい。

今回ガザ地区で見つかったのも、生ワクチン由来のポリオウイルスだ。解析によると、このウイルスは23年にエジプトで検出されたウイルスとつながりがあるという。人の行き来があり、持ち込まれたのだろうか。

今回のワクチン接種に使われたのは、この変異ウイルスに対応する新しいタイプの生ワクチンだ。

WHOによれば、23年10月に戦闘が激化する以前は、ガザ地区のワクチン接種率は十分に高かった。しかし、戦闘の影響で子どもたちへの定期接種率が低下してしまいました。さらに清潔な水が入手できないことや栄養失調のまん延などから、ポリオに限らず、本来ならワクチンで救えるはずの感染症が拡大する恐れがあるという。

ポリオワクチンの効果に期待したいのはもちろん、今回の一時停